

新潟市美術館 2026年度 最初の企画展

「戦後80年 戦争と子どもたち」

PRESS RELEASE



青柳喜兵衛《天翔ける神々》1937年、北九州市立美術館蔵

戦後80年
戦争と
子どもたち

描かれた「子ども」像を通じて、戦時下の美術を考えるユニークな企画です。戦中から終戦直後に描かれた子どもの姿、子どものための絵本や紙芝居、子どもたち自身が描いた作品など、全国各地から集めた優品・珍品約130点。その多くは単なる歴史的記録ではなく、象徴的な意味を持っていました。危機の時代に「子ども」像が担った文脈、時代・社会・美術の抜き差しならぬ関係を、全5章の構成を通じて検証します。

- 1) 会期：2026年4月11日(土)～5月31日(日)
 - *5月7日(木)より一部展示替えがございます
 - *4月21日(火)から4月23日(木)はコレクション展の展示替えのため、企画展のみ開催
- 2) 休館日：毎週月曜日(5月4日[月・祝]は開館、GW中無休)
- 3) 開館時間：午前9時30分～午後5時(観覧券の販売は閉館30分前まで)
- 4) 観覧料：一般：1,200円(1,000円)
高校・大学生：900円(700円)
中学生以下：無料
 - *カッコ()内は；
 - ・20名以上の団体料金
 - ・リピーター割引料金(本展観覧券の半券提示で本展2回目は団体料金に割引)
 - ・あっちも割料金(新潟市新津美術館企画展観覧券提示で団体料金に割引、1回1名・1年間有効)
 - *障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方、並びに一部の介助者の方は無料(受付でご提示下さい)
 - *会期中は、本展の観覧券で「コレクション展」もご覧いただけます
- 5) 主催：新潟市美術館、青幻舎プロモーション

展示構成

今から約 80 年前、日本の美術家たちは、戦中・戦後を生きる子どもたちをどのように表現していたのでしょうか。また、当時の子どもたちはどのような美術に触れていたのでしょうか。当展覧会では、日中戦争が開戦した 1937 年から、戦後の 1949 年までの間に制作された、子どもたちの姿を表現した作品に焦点を当てて紹介します。

〈第一章〉 童心の表象

無心に遊ぶ姿やあどけない表情、親密な存在として描かれてきた子どもたち。1930 年代以降の作品では、その健やかさがことさらに強調されるなど、当時の社会状況がうかがうことができます。



小林猶治郎《童心双六》1937 年、練馬区立美術館蔵



小杉放菴《金太郎遊行》1944 年、栃木県立美術館蔵

〈第二章〉 不安の表象

本土空襲の本格化、集団疎開の開始など、戦争は市民の日常にも影を落とし、子ども像もその不安を反映します。この章では防空頭巾を被った子どもたちの姿や、兵器をかたどった玩具に着目します。



今西中通《子供を抱く女》1943 年頃、郡山市立美術館蔵



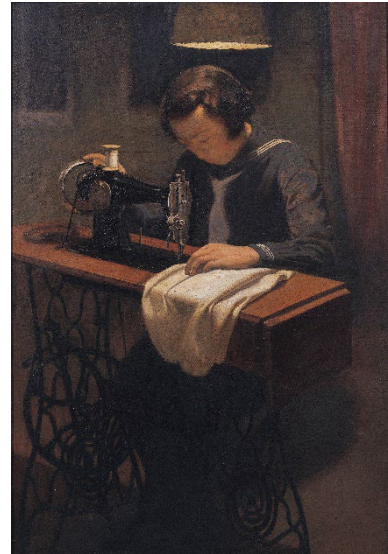
渡部菊二《戦国の少年》1943 年、会津若松市教育委員会蔵

〈第三章〉 理念の表象

子どもたちは出征の見送り、慰問、勤労奉仕などの場面にも登場します。総力戦体制のもとで国民の模範として描かれた子どもたちの姿をたどります。



中澤弘光《別れの乳房》1940～44年頃、日本赤十字社秋田県支部蔵



服部喜三《燈火管制》1943年、京都市美術館蔵



中尾彰《勤労奉仕》1944年、茅野市立北山小学校蔵

〈第四章〉 明日の表象

暗闇の中から私たちを見つめる子どもたち。戦時下においても、子供たちを一人の人間として描いた画家がいました。子どもたちが描く作品の自由さを尊重・再発見する試みも見られます。

〈第五章〉 再建の表象

終戦後の焼け野原になった街、そこに生きる人々の姿。そんな中で子どもたちは、もっとも傷ついた者の姿、そして再建を担う希望の象徴として描かれました。



麻生三郎《子供》1948年、弥栄画廊蔵

〈関連イベント〉

【1】美術講座『『ぼくたち』の好きな戦争』

4月18日（土）

講師：藤井素彦（新潟市美術館学芸員）

【2】美術講座「三人の疎開画家」

5月3日（日）

講師：塚野卓郎（新潟市美術館学芸員）

【3】美術講座「戦時下 谷中安規の憂いと自己解放」

5月16日（土）

講師：滝沢恭司（新潟市美術館特任館長）

*いずれも午後2時～、約90分、当館2階講堂にて、聴講無料、申込不要、先着80名

〈プレス公開日〉 4月11日（土）、12日（日）

- ・報道関係の方はエントランス受付でお名刺をお願いします。
- ・カメラマンの方は貴社の腕章をご着用の上、一般来場者にご配慮ください。
- ・出品作品の画像、担当学芸員の取材対応は、2次元コードよりお申込ください。



〈お問い合わせ〉

新潟市美術館（担当：藤井・塚野・菊地）

〒951-8556

新潟市中央区西大畑町 5191-9

TEL:025-223-1622 FAX:025-228-3051 E-mail:museum@city.niigata.lg.jp